

2025「ことばの森教室」第3回優秀作品紹介

＜小学校5年生＞ 作文課題「ぼく・私の宝物(大切なもの)」

5-①

「自分を変える経験」

私の宝物は「選挙に出たこと」そして「児童会長になったこと」という経験だ。

私は今年、児童会役員として活動してきた。時には困難にぶつかることもあったが、とても楽しんで取り組んでいた。だが今回の選挙には、出るのをためらってしまった。六年生になっても続けたいとは思っていたが、いろいろ考えるうちに、「私が出るより、他の人が出た方が学校のためだろう」と思ったのだ。その夜、担任の先生から電話がかかってきた。「あなたは一年間、役員として活動してきた経験があるから、立候補してみたら。」その言葉に、気持ちがゆらいだ。さらに母にも「やりたいなら、やってみたら。」と言われ、選挙に出ることを決意した。

演説の日。落ち着いて私の意志を伝えることができ、会長に当選した。「会長」という立場に見合うようなふるまいや行動ができるようにしたい。自分を変えるチャンスとなってくれたこの経験が、私の宝物だ。

5-②

「私の宝物は…」

「うるさい！わかってる！」また今日も、おこられた。今からやろうと思っている時に言われると、やりたくないくなる。でも、それは私のためかもしれない。

私は、お父さんお母さんにはほとんどいつも、おこられている。おこられるといやな気持ちになる。お父さんお母さんは、「おこりたくて、おこっているわけではない。」と言っているが、私だっておこられたくておこらせているわけではない。けれど、私のことをいつもおこっているのは、大人になった時の私のためなのかもしれない。お父さんとお母さんは、将来の私のことを心配して言ってくれていると思ううれしい。お父さんとお母さんは、仕事も家のこともほとんどしてくれているので、とても大変そう。

だからこれからは、自分でもできそうなことを見つけて、少しでもやってあげたい。それに、お父さんとお母さんのことを、あまりおこらせないようにしていきたいと思う。

5-③

「名前は『ひん』」

「可愛い！」今までぬいぐるみに対して、そう思ったことがない。けれど、このぬいぐるみを見て、初めてひかれるものがあった。

あれは4年前、お店に行った時にふと目にとまった、ひんやりグッズのぬいぐるみ。その時は、直前に親に怒られたため買ってもらえなかった。その気持ちがずっと残っていたので、誕生日に親せきのおばあちゃんに買ってもらった。それから4年経ったけれど、今も毎日一緒にいる。そのぬいぐるみは、真っ白なアザラシだったけれど今は茶色。ふわふわだったけれど、今はぶよぶよ。お母さんに手術してもらって、ふわふわにしてくれたこともたくさんあった。洗濯も何回もしてもらった。旅行の時はいつもリュックに詰め込んで連れて行く。それくらい大事にしている。

私はもうすぐ中学生になる。このぬいぐるみを大切にする気持ちに、いつか整理をつけ「さよなら」をする時がくるかもしれないけれど、それまで大切にていきたい。

5-④

「海の宝」

なつかしいな…。シーグラスを見るたび思い出す。あの時の海を。海へ行く前日、シーグラスの動画を見て、明日探し実物を見てみたいと思った。オレンジ色はめずらしいこと、茶色の希少度はあまり高くないこと、調べてみたらたくさん

の情報があった。

そして当日、頭に入ってきた情報をもとに探して見つけたシーグラスは、本当に茶色ばっかりだった。「流石に珍しい色はないかあ」そんなことを思ったが、そもそも動画で見た大きいシーグラスが見つからない。大きなシーグラスも希少度は高い。どれも1センチ以下のサイズで、見あたらなかった。希少度が高い物も、続けて見ればあるかもしれない。そんな思いで探してみると、「あっ」初めて1センチ以上のシーグラスを発見したのだ。持って帰って宝物にしよう、そう思った。

この経験を通して、この宝物はこれからもずっと大事にしていきたいと思った。がんばって宝物を探したことを忘れずに、持つていきたい。

5-⑤

「一生の宝物」

「ドキドキ」私達の家族は、犬を飼う前に体験ができる場所に行った。

体験当日、家族で体験しに行った。体験した時私は、本当に飼えるか不安になった。体験が終わつた。家に帰つて家族で話し合つた結果、「飼えない」ことになつてしまつた。休日に家族で買い物に行つた時、ペットショップに行つた。そしたら一目ぼれした犬がいた。お父さんとお母さんが話し合つて決めた。結果、飼えることになつた。私は、お世話をずっとしていた。それからまた、6ヶ月ほど一緒にいた。それからまた家族でペットショップに行つた。そしたら、ラブラドールレトリバーという犬がいた。その犬は、家族みんなが好きな犬だつた。また話し合つた結果、飼うことになった。私は、すごく嬉しかつた。私は、これからもお世話していきたい。

私は、飼えなかつた時の悲しさを、大好きな犬が全部吹き飛ばしてくれた。それが私の一番心に残つてゐる、一生の宝物だつた。

5-⑥

「上手な字」

私は上手ではありませんが、書道が好きです。そんな書道は、2年生の頃から私の支えになつてくれました。今では、書道は私の心の友になつています。

2年生の頃、書き初めて特選を取れませんでした。正直、「私の字は上手」と思つてゐたので、悔しかつたです。それが、書道を習い始めたきっかけでした。最初はあまり好きではなく、サボつたこともあります。でも3年生の時に、推薦に選ばれて、初めて字を書くことの楽しさを知りました。それからは、進んで雑誌を読んだり家でも練習を重ねたりして、どんどん上達することに楽しさを感じていきました。

今は「同じ字が書けない」という問題に苦戦していますが、雑誌を読み返して上達しようがんばつています。くじけそうになることもあります、「字が上手」と言ってもらえるまで一生けん命書道にはげんでいきたいです。

5-⑦

「ただ好きなだけじゃない宝物」

ぼくは迷わずやつた。チップとデールの人形のクレーンゲームだつた。取れた時、このキャラクターが好きだからうれしいだけでなく、達成感、ホッとした安心感、色々な気持ちが込み上げて「ヨッシャー」とさわぎたいくらいだつた。

最近、クレーンゲームでチップとデールの人形を見つけた。「1回だけ、これが最後」と言つてゐる内に、たくさんお金を使つてゐた。でもどうしても欲しかつたので、店員さんに位置を戻してもらつたりアドバイスをもらつたりした。何度も挑戦して人形が取れた時、お金はたくさん使つたけれど、嬉しい気持ちでいっぱいだつた。

もともと好きなキャラクターだつたけれど、頑張つたり考えたり悩んだりして手に入れることができたこの人形は、ぼくの一番の大切なものになつた。これから的生活の中でも、いろいろ考えたり悩んだりして大事な思い出をたくさん作つていただきたい。

5-⑧

「妹」

「えへへへへ。」ぼくの妹は、いつもこうやって笑っている。この笑顔が宝物だ。

ぼくの妹は、4月21日に産まれた。子どもを産む時は、死んでしまうこともあるので、ぼくは、はるにお母さん死んだと言った。その時産まれた妹の姿は、目が開いているようで開いていない感じだった。ぼくは、抱っこをするのが怖くて全然できなかった。でも横抱きができ、たて抱きができるようになってきた。最初は何もできなかつたけど、今は自分で座つたり気になった物を目がけて進んでいる。

ぼくはこの笑顔を守るために、これからも妹のお世話をしっかりしたい。今は、一緒に遊んでいる。他にも、だめなことはだめと言つても聞かないから、いつも「めんめ」と言つてゐる。最近、妹が机をつかんで立とうとしている。まだ誕生日がきていないし、来年ぼくは最上級生になって、来年の色組リーダーになろうと思っているから、妹の憧れのお兄ちゃんになれるように頑張りたいです。

5-⑨

「無題」

ぼくの大切なものは、命です。ぼくが、命にした理由は2つあります。

一つ目は、ぼくが小さな時お父さんと妹でおふろに入っていました。その時、お湯につかっていたぼくは、足をすべらせて、おぼれそうになりました。おぼれそうになった時、「お父さん」と呼んでも、お湯の中だから聞こえなくてあせりました。手を伸ばしたら手すりがあつて、それにつかまって起き上がれました。その時、「生きててよかったです」と思つたからです。二つ目は、2年生の時、命の勉強をしたからです。ぼく達が生まれてくるまでのことを知って、すごいなあと思ったからです。お母さんとお父さん、病院の人たち、たくさん的人がぼくを生むのに協力してくれていたから、今ここに自分がいるんだなあと思いました。だから、その命をむだにしないで生きようと思いました。

これからいやなことやつらいことがあっても、命をむだにしないで生きたいです。

5-⑩

「レオ」

ぼくにとって大切なものは、おばあちゃんの家にいる犬のレオです。理由が2つあります。

一つ目は、昔にも犬を3匹飼つていて、そのうちの一匹が病気で死んじやつたからです。昔にも犬を飼つていて、犬でも大切にしないと、すぐに病気にかかって死んじやうということを知り、今度は病気にかからないようにちゃんとお世話しようと思ったからです。二つ目は、3匹のうち一匹が捨て犬だったからです。ぼくがまだ産まれてない頃に、トンネルに犬がいて、その犬が車を2日間も追いかけてきたので、車に乗せてエサをあげたりしたそうです。

ぼくは、この話を聞いて、犬も人と同じくらいの価値があるのに、犬を捨てる人がいることにおどろきました。今度飼つた犬を、人と同じように大切に飼つてあげたいなと思っています。ぼくにとって犬は、大好きなので犬を捨てたり、わざとけがや病気に入りする人たちを減らせるような活動をやっている人たちがいるので、ぼくも活動に取り組みたいなと思いました。

<小学校6年生> 作文課題「あこがれる人、すごいなと思う人」

6-①

「いつか、私も」

「おはようございます。」毎朝一人ひとりを出迎えてくれる。今日も一日安心して、元気に過ごせる気がする。授業を見に来てくれる時もある。その時も挨拶をしてくれる。元気に挨拶をするからみんなも元気が出る。授業の内容を一緒に考えてくれることもある。一緒に勉強できる機会は少ないので、とてもうれしい。運動会の練習を見に来て、アドバイスをくれたこともあった。そんな私が、すごいと思う人は校長先生だ。

毎日やううと思っても三日坊主で終わってしまうことや、進んで挨拶ができないことが私はたまにある。校長先生は生徒がたくさんいるのに、一人ひとりのことを大事にしてくれている。

校長先生から、最後まで諦めないこと、小さいことでもコツコツと続けることで人の役に立つこと、みんなを笑顔にできることを学んだ。私もいつか校長先生のように、みんなのあこがれの人になれるようになりたい。

6-②

「私があこがれてる人」

私はあこがれている人がいる。大谷翔平さんだ。大谷翔平さんは、選手としてMVP 3回、新人王、シルバースラッガー賞3回、その他色々な賞を持っている。

しかし、私が一番あこがれているのはこのとてつもない成績ではなく、他にある。それは「人間性」である。大谷翔平さんは、細かいところまで気を配ることができる。そして、それを証明する出来事がある。それは、「ゴミを拾う」ということである。メジャーリーグのベンチは、ゴミが散乱している。大谷さんは、他のメジャーリーガーのようにゴミを散乱させるのではなく、拾っているのだ。このことから、大谷翔平さんは細かいところまで気を配っていて、「人間性」も良いことがわかる。

私も大谷翔平さんのように、細かいところまで気を配ることができるようになりたいと思う。

6-③

「練習の積み重ねの大切さ」

僕がすごいと思った人は、プロ野球選手だ。その中でも、大谷翔平選手と山本由伸選手がすごいと思った。なぜなら、メジャーの世界で歴史に残る大記録を打ち立て、大活躍しているからだ。

僕は野球を観戦、応援するのが好きで、毎日ニュースやネットを見て情報を得ている。ニュースでは、特に大谷選手や山本選手の試合速報や特番などが、数多く放送されていた。その放送を見るたびに「活躍していてすごいな」と強く感じた。

ある日、大谷選手と山本選手の試合前の映像が放送されていた。それを見ると、入念にバッティング練習をしている大谷選手や投手コーチと話し合い、ピッティング練習をしている山本選手がいた。

大谷選手も山本選手も、練習の積み重ねが今の大活躍につながっている。大谷選手と山本選手から「練習を積み重ねることの大切さ」を学んだ。

6-④

「自信を持って」

私は意見を伝えたり、大きな場で発言したりするのが得意だ。だが、5年生まで今では考えられないほど消極的だった。今の自分があるのは、間違いなくある先輩のおかげだ。その先輩は、一つ年上の当時児童会長だった。

児童会委員だった私は運動会の時、先輩と運動会の仕事をしていた。先輩が全校の前で話すと、その場にいた人たちは目をキラキラ輝かせているように話を聞いており、私も感動した。私も、話を聞いている人を引き寄せられるようになりたい、と心から思った。先輩に「大勢の人と話している時、大切にしていることは何ですか。」と聞くと、「自信を持って相手に伝えることかな。」と優しく教えてくれた。

この出来事から、学級で自分の意見を発言する時間になつたら「自信を持つ」ということを心に決めて、発言する回数を増やしている。先輩に少しだけ近づけたような気がした。来年は、先輩と同じ中学校に通う。今からとても楽しみだ。

6-⑤

「レーナ・マリアのように」

レーナ・マリア、それは世界的歌手であり、私のあこがれる人物である。レーナは、生まれつき両手と片足半分が

ない障害者だ。

私がレーナのことを知ったきっかけは、ピアノの先生に伝記を貸してもらったことだ。私は、1年生の時からコーラスを習っている。だから、レーナについて知りたくなった。伝記を読んで、レーナはどんなことがあってもあきらめず、色々なことにチャレンジし続けた人だと思った。レーナは小さい頃からいやなことを言われたり、何度もつまずいたりしてきた。でも、その度に立ち上がって自分の夢に向かって歩いてきた。私だったら、途中であきらめてしまうと思う。

私は、レーナ・マリアという人物を知って、2つのことを学んだ。一つ目は、あきらめないことの大切さ。そして、障害者も障害のない人も、あきらめずに努力し続ければ、何にだってなれるということだ。私もレーナ・マリアのような人になりたい。

6-⑥

「父の背中」

「すごいなあ。」僕が一番あこがれている人は、お父さんだ。お父さんは、毎日仕事で忙しいのに、僕の習い事の送り迎えや洗濯、夕飯の支度までしてくれる。自分の空き時間を犠牲にして、家のことを最優先にしてくれている。僕はそんなお父さんの背中を見て、自分自身も家族のために何かできることはないか考えてみた。

小学生の僕にできることには限りがあるけれど、少しずつでもお手伝いできることを行動にうつしてみた。完成した料理の皿を食卓に運んだり、玄関の掃除をしてみたり、部屋のそうじ機をかけてみたり、進んで自分ができることをしてみた。実際にやってみると、意外に時間がかかり大変な作業だと分かった。

僕はこれが毎日続くと思うと、少し「嫌だなあ」と思ってしまう。でも、お父さんの口から不満を聞いたことはない。僕もお父さんを見習って、自分のやるべき勉強や家のお手伝いを、しっかりとやっていきたいと強く思った。

6-⑦

「努力すること」

「今日も何してるの？」私は、よく庭で卓球の練習をしている兄に話しかける。兄は卓球部で、庭にある卓球台で自主練習をしている。秋に、兄の試合を見に行つた。すると、試合で勝って喜んでいる姿を見て、兄に憧れを持った。

兄が庭で練習していると、暑くても寒くてもしているので、「またやっているのか」と冷たい気持ちで見ていた。しかし今は、そんな兄を見ると温かな気持ちになる。練習相手がない時は、弱くても相手をする。それに、兄の試合も毎回見に行き、心から応援するようになった。

私は今まで、努力をしても結局無駄だと思っていた。でも今、兄が努力をして頑張っていて、兄のように努力をする人間になっていきたい。そして私も、来年は同じ卓球部に入る。今から努力を積み重ねて、いつか兄を超えるような存在になってみせる。努力をすることを教えてくれた兄に、感謝したい。

6-⑧

「あこがれの人」

僕がすごいと思う人は、元プロ野球選手の王貞治さんだ。なぜかというと、世界で一番多くホームランを打っているからだ。

僕は、なぜ王さんがこんなたくさんホームランを打つことができたのだろうと思い、王さんについてインターネットで調べてみた。すると、たくさんの名言を残していることがわかった。例えば、「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるなら、それはまだ努力とは呼べない」というものがあった。僕は今まで野球をしてきて、色々な努力をしてきた。バットをたくさん振ったり、速いボールのノックを受けてきたりしてきた。それでもなかなかスタメンになれなかつた。速いノックは、ボールが怖くてなかなか捕れず、嫌になることもあった。でも、王さんの言葉を借りると、「それは努力とは呼べない」のかもしれない。

「私の尊敬している父」

私が尊敬しているのは、父だ。父は毎日働いて家族を支えている。朝早くから夜の7時くらいまで働き続ける姿は、努力の人と言える。5人分の食費を一人で稼ぎ出す父は、責任感の強い人だ。私達が安心して生活できるのは、父のおかげだ。

父は、ただ働く人ではない。疲れているはずなのに、家では笑顔を見てくれる人だ。休日には、私達が好きなゲームセンターへ連れて行ってくれる。父と一緒に遊ぶ時間は、とても楽しく家族を思いやる気持ちが伝わってくる。

父は私にとって、大きな支えだ。私は父の姿から、多くを学んでいる。例えば父は、努力を惜しまないことの大切さを教えてくれる。また、その父の生き方は、私にとって道しるべだ。だから私は、父を尊敬している。父は私の目標であり、私の誇りだ。